

一般演題 スポーツ外傷 OP3-2

当院におけるスポーツ外傷に対する高気圧酸素治療

○星野 傑^{1,2)} 小柳津卓哉¹⁾ 雨宮正樹^{1,2)}

丹羽康江¹⁾ 桜沢貴俊^{1,3)} 干川祐樹^{1,3)}

藤巻愛子^{1,3)} 平澤幸太郎^{1,3)} 出牛雅也^{1,3)}

山下隼斗^{1,3)} 大久保 淳^{1,3)} 柳下和慶^{1,2)}

- | |
|---------------------------|
| 1) 東京医科歯科大学病院高気圧治療部 |
| 2) 東京医科歯科大学病院スポーツ医学診療センター |
| 3) 東京医科歯科大学病院 ME センター |

【背景】

スポーツ外傷において以前より高気圧酸素治療 (HBO) の有効性が報告されている。当院においても、肉離れや捻挫、靭帯損傷などスポーツ外傷の中でも最も頻度の高い軟部組織外傷を中心に治療を行っている。今回当院におけるスポーツ外傷に対する HBO 治療に関して報告する。

【方法】

2017年1月～2023年12月までの間に、当院において治療を行ったスポーツ外傷に関して、疾患、治療回数、受傷から治療開始までの期間、競技などを検討した。

【結果】

患者数 829 名に対して、延べ 1,805 回の治療を行った。競技別ではラグビー、陸上、野球、サッカー、柔道の順に多かった。疾患別では肉離れ、足関節捻挫、膝内側側副靭帯損傷、その他 (疲労骨折、腱炎など) の順であった。年度別の件数としては 2017 年 220 名、2018 年 183 名、2019 年 177 名、2020 年 65 名、2021 年 54 名、2022 年 61 名、2023 年 69 名であり、COVID-19 の影響により患者数の減少を認めたが、徐々に改善している。また、肉離れ症例では受傷から平均 2 日以内に治療を開始している。

【考察】

我々は過去にラットを用いた骨格筋圧挫損傷モデルにおいて、受傷早期に HBO を行うことにより腫脹の軽減および筋修復を促進すると報告した。肉離れなどの軟部組織損傷に対しては、受傷早期に HBO を行うことで、筋修復の促進や腫脹の改善において有用であると考えられる。